

会 議 録

会議の名称	第7回 戸田市自治基本条例推進委員会
開催日時	令和5年10月24日（火） 午後7時00分～午後8時00分
開催場所	戸田市役所5階 大会議室A
委員氏名	<input checked="" type="checkbox"/> 横山 誠 <input type="checkbox"/> 岩本 恭幸 <input type="checkbox"/> 木本 篤史 <input type="checkbox"/> 芳賀 良 <input type="checkbox"/> 細井 翔太 <input type="checkbox"/> 宮澤 正 <input type="checkbox"/> 小野塚 加代 <input type="checkbox"/> 宮澤 浩二 <input type="checkbox"/> 浅生 和英 <input checked="" type="checkbox"/> 古屋 としみつ <input type="checkbox"/> 牧野 秀平 <input type="checkbox"/> 長尾 愛子 <input checked="" type="checkbox"/> 松下 啓一 <p style="text-align: right;">（ ◎委員長 ○副委員長 ） （ □出席 ■欠席 ）</p>
説明のために出席した者等	
事務局他	市民生活部協働推進課 峰岸課長、江口副主幹、秋山主任
議 題	（1）答申について （2）その他
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別紙のとおり

発言者	議題・発言内容・決定事項
	<p>1 開会 委員の紹介</p> <p>2 挨拶 横山委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>議題(2) その他</p>
委員長	<p>本日の会議時間と内容を考え、前回と同様に次第の順番を一部変更して進めていきたい。まず初めに議題(2)その他についてご報告いただき、その後議題(1)答申についてに移りたいと思う。</p> <p>では、まず先日実施した啓発活動について、参加した委員の方よりご報告いただきたい。</p>
委員	<p>10月21日に第51回商工祭にて、有志委員5名と事務局2名で啓発活動を実施し、午後2時半過ぎには700セットの啓発品がなくなるほど盛況だった。来場者も多く、とても活気のあるお祭りだった。</p> <p>テント内のクイズは、今回子ども向けのやさしいクイズも作成したことで、多くの人に参加しやすい形となった。子ども向けのクイズの答えを親が子どもに教えていた。「みんなのちからでとだのまちづくり」というフレーズを親子で一緒に唱えることで記憶に残ってくれたらよいなと思った。私自身も、市内企業や団体が数多く出店している商工祭に参加できたことはとても有意義な経験となった。</p>
委員長	<p>私は午後から参加したが、「出店者に知り合いがいるから市外から来た」という遠方からの人や、自治基本条例のブースで「記念写真を一緒に撮らせてほしい」という外国の方もいた。何らかのつながりやきっかけで参加した人たちが、そこで感じたことが戸田のイメージになって、広がっていくのかもしれないと感じた。</p> <p>缶バッジやクイズは委員長と副委員長で事前に承認した上で実施した。</p>

委員長	事務局から補足説明などあるか。
事務局	資料2～4ページに沿って参考3～6も交えて説明。 今回の啓発事業でアンケートを実施し、189枚の回答があった。そのなかで、全年代を通して地域活動に参加している人が63%、参加していて良かったことは、近所の人と仲良くなった・友人ができたという人が一番多く、39%だった。
委員長	事務局の説明について何か質問はあるか。
委員	子ども向けのクイズを行っている親子がいた時、クイズの答えを私が親にそっと伝え、親が子どもに「答えは〇〇」と教えられるようにした。家族のつながりを保つことにも役立てたかなと思っている。
委員長	午後はその手法を使わせていただき、とても好評だった。
委員	私は前回の啓発活動に引き続いて参加したが、今回は商工祭という多様な内容のイベントだったこともあり、幅広い方の参加があり、啓発活動の場として有意義だったと感じた。
委員	市役所のブースだと遠目で見て素通りする人が多いと思うが、のぼり旗が目立って良かった。また、テントの場所がお祭り会場の出入口に近かったので、立ち止まってもらえたと思う。何人か人が集まってくると、近寄りやすい雰囲気になる。結果的に多くの人が参加しやすいブースになって良かった。まちづくりについてちょっと知ってもらえたかなと思う。
委員長	次に、Zoomを利用した研究会の実施報告を私からさせていただきたい。 資料の5ページと参考7の会議録のとおり、9月26日に第4回Zoom de まちづくりを開催し、テーマを「戸田市の公共施設の現状と今後について」として、公益財団法人戸田市文化スポーツ財団の長谷川氏をお招きし、「指定管理者制度」の概要や目的、運営している3施設の紹介と貸室の現状と課題、今後の展望について、分かりやすく説明していただいた。さくらパルでは、地域コミュニティの場として

	<p>飲食ができる貸室があると知ることが出来た。それをもっと発信すればさらに素晴らしいと思った。</p> <p>終了後に長谷川氏とやり取りし、「自分たちのことを説明する機会はありません、やって当たり前と思われる仕事なので、このように応援されることは嬉しかった」との話があった。まさにこの研究会の主旨である「担い手は、自分たちの取り組みや課題を発信する機会、応援されている事を実感し、励まされる機会」となったように感じた。出席できなかった方も、YouTube に限定公開している。是非ご覧いただきたい。</p>
委員長	<p>(2) その他については以上となるが、委員の皆さんより全体を通して何か意見等はあるか。</p>
委員	<p>(特になし)</p>
	<p>議題 (1) 答申について</p>
委員長	<p>それでは議題 (1) 答申について進めていきたいと思う。</p> <p>前回までの委員会での議論を事務局がまとめた答申案 1、松下委員が今までの私たちの会議録を整理し、良い形にまとめた答申案 2 となる。</p> <p>本日は、答申案 1 と答申案 2 のどちらを最終的な答申のスタイルにすべきか、皆さまの意見を伺い、決めていきたい。</p> <p>まず、事務局から答申案の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>今までの答申については、「委員の言葉ではなく市が考えた抽象的な内容になってしまった。」「委員から出た意見や言葉での具体的な内容でなければ意味がない。」とのご意見があがっていたため、今回は委員の皆さまの議論を抽出しながら作り上げる形となった。</p> <p>答申案は市長への要望書や意見書ではなく、また委員会の報告書でもない。皆さまの議論の大半は、「市長にやってもらうこと」が多い結果となった。</p> <p>この委員会の答申は、自治基本条例の理念や原則に基づいて、3者協働でそれぞれができることを考え、実効性のあるものにしていった結果、まちづくりの担い手が増えることを、市長が具体的にイメージし後押しできるようにする必要がある。よって、答申案の最後の「お</p>

	<p>わりに」で、「第四期委員会を通じ、市民・議会・行政の3者が互いに尊重し、共に意見を出しながらそれぞれの立場で活動出来ることをあらためて考えていくことが、自治基本条例の理念であると、共通認識した。」と入れている。</p> <p>啓発用マンガパンフレットには、市民・議会・行政の3者でまちづくりを行うことが協働であると記載されている。そのため、答申案の中の具体的施策は3者がそれぞれの立場で出来る最大限の役割を入れている。今までの会議の中での皆さまの発言を基にした内容で、答申案1では項目も特に議論した2つとした。</p> <p>答申案2は、松下委員にご提案いただいた案である。</p>
委員長	<p>私は甲乙つけがたいと思っている。私は自治基本条例のように、どうしてこのようになったのかを「あしあと」解説文のようにつけたいと考えていた。しかし、答申はシンプルにする必要があるため、皆さんが議論した内容を加味してこのような形となっている。</p>
	<p>答申案1はなるべく皆さんが議論した内容を軸にしながらかいている。答申案2は松下先生がそれを素材として組み直している。</p> <p>それでは、皆さんのご意見を順番にお話いただきたい。</p>
委員	<p>答申案1は具体的で分かりやすいと感じた。答申案2は否定的な表現があるところは変えた方がいいと思う。「(3) 市民や活動団体自身による Zoom 研究会をやってみよう」という項目は、答申に入れても良いのではと思う。</p>
委員	<p>答申案1は分かりやすいと感じた。答申案2は言い回しが全体的に柔らかいと感じた。「～してみよう」など) この言い回しにした理由を聞きたい。</p>
事務局	<p>書籍で使われる表現のように感じている。松下委員は事務局案を編集していただく形となったため、自然に読みやすく、引き込まれる表現法として、このようにされたと思われる。</p> <p>答申案1を答申案2の言い回しに修正することも可能である。</p>
委員	<p>答申案1は新奇性がないように思った。答申案2は「開かれた組織運営」「専門人材の連携」などエッセンスが散りばめられ、説得性が感じられた。ただし、(3)の「Zoom」は汎用的言い回しに変えた方</p>

	<p>が良いと思う。</p>
委員	<p>答申案 1 も 2 もどちらかが良いというのではない。答申案 2 の (2) 専門人材については、既に人材バンクがあるが、更に何か作るということなのか疑問に思った。</p>
委員	<p>項目構成は答申案 1 が、穏やかな文章表現は答申案 2 が良いと思った。また、答申案 1 は 3 者それぞれの役割が分かりやすいと感じた。</p>
委員	<p>答申案 1 は 3 者の役割の書き方がスムーズに頭に入った。答申案 2 は文章の入り方 (問題提起) が好きで、答申案 1 をこの表現にすればよいと思った。</p>
委員長	<p>最近のニュースでもそうだが、見出しで結論を書いてその後に説明していくという書き方なのかと思う。</p>
委員	<p>答申案 1 は素直に分かりやすかった。答申案 2 は単語をもっと分かりやすく書き換えた方が分かりやすくなると思った。例えば、「専門人材」とはなにか。</p>
委員長	<p>「よく知っている人」「取り組んでいる人」など力を合わせるとすごい力になるというイメージでもいいのではないかと思う。</p>
委員	<p>一度に市長へ伝えるには、分かりやすさが重要だと思うので、答申案 1 は具体例が多く良いと思う。答申案 2 は多くの人に見せるような内容である。また、(1) の市民活動について、開かれた組織でないと参加しないというのはよく分からない。(2) は市民一人一人が主役と言っているのに、専門人材の発掘という内容なので、言い換えが必要と感じた。</p>
委員長	<p>(2) の「市民一人一人が主役」と「専門人材の発掘」というのは、「わたしたち一人一人が専門性を備えている」という意味だと思う。色んな経験の中で他の人に情報共有する何かがあるということではないか。</p>
事務局	<p>「専門人材」と表現すると違った解釈が生まれるため、「その分野</p>

委員	<p>でよく知っている人」「みんなが経験してきたこと」などに変えた方がいいと思う。</p> <p>答申案1はイメージしやすく、具体的だと感じた。答申案2はインパクトのある言葉が多く、一歩先に何かをやってくれそうな予感がする文章に感じた。また、本の目次のような見出しも良いと感じたが、(1)の「開かれた組織運営」とは何か疑問に残った。</p>
副委員長	<p>答申案1は馴染みのある文章で、答申案2は教科書的な文章に感じた。ただ、いずれも市長が読んだ時にインパクトがないため、さらに具体的なものを入れたほうが良いと思っている。例えば、文化会館の利用予約の方法や時間のこと、町会に積極的参加を促す条例作りなどを入れた方が良いのではないか。</p>
委員長	<p>皆さまから一通りご意見を伺ったが、今日はまず答申案1と答申案2のどちらをベースとするか決めたいと思う。その後に表現など修正点についてまとめ、次回の委員会で最終案を提示出来ればと思う。</p> <p>最初にもお話したが、私は甲乙つけがたいと思っている。最初に答申案2を読んだ時は、スタイルの変化に驚いたが、学識者の表現法に感服し、何度も読んで、見せ方の違いと理解した。とはいえ、戸田市では、自治基本条例を制定する際、他市を真似ることはせず、一から手作りして「戸田流」となった経緯を考えていくと、より手作り感のある答申案1でどうかと思っている。ただ、皆さんの意見にもあったとおり、見せ方という点で、答申案2に沿った修正が必要に感じている。</p> <p>皆さまのご意見を伺い、答申案1をベースとすることが委員会の総意ということでよろしいか。</p>
委員	<p>(異議なし)</p>
委員長	<p>それでは答申案1をベースとして、答申をしていきたいと思う。何か、事務局で補足することはあるか。</p>
事務局	<p>これからの作業は、内容を議論するのではなく、文言の修正や加筆内容を考えていただきたい。答申案1に、皆さまが思う内容や意見を、実際に記載していただく形で事務局までご提出いただきたい。期限は</p>

	<p>11月2日としたい。</p> <p>その後、皆さまからいただいた修正案を集約し、再構成して委員長や副委員長と相談し、皆様にご提示したい。</p> <p>例えば、「～してみよう」という語尾などの軽微な修正は事務局で可能だが、新たなエッセンスを加える場合は、皆様のご意見をいただきたい。</p>
副委員長	<p>もっと具体例を入れるか入れないかこの場で決をとりたいという思いがある。また、答申の中に書籍のような文言を入れるという意見があったが、誰に対して伝えたいのか疑問に思っている。</p>
委員長	<p>副委員長の「この場で決をとりたい」というご発言の意図は、「他の委員の皆さんが答申の中に具体例を入れなくて良いと思っているのであれば、入れなくてよい」ということかと思う。そうであれば、ここで決を取るのではなく、修正案を皆さんに出していただき、その修正案を集約していく中で事務局の判断に委ねてもよいのではないかと思っている。</p>
副委員長	<p>個人的な意見だけで答申するものではないと思っている。</p>
委員	<p>答申案①の中の(1)の中で「活動場所、時間を広げる」とあるが、これでは何を意図しているか想像できない。変えてほしいことは具体的に一步踏み込んでいくのがこの委員会の役割だと思う。</p>
委員	<p>私も具体的な話を入れることに賛成である。</p> <p>先ほども話したが、答申案1は平凡なため、答申としてパンチがない。そのため、具体例を入れた方がいいと思っている。また、答申案2の(1)の中にある「モデル運営マニュアル」のように、今までにない発想を散りばめていくと答申として良いのではないかと思う。</p>
委員長	<p>もっと皆さまの意見はあると思うので、11月2日までに事務局に修正案として提出していただきたい。</p> <p>次回の委員会では最終形の答申案を皆さまにご提示したい。</p> <p>4 事務連絡</p>

事務局	次回の推進委員会は令和6年1月16日19時に開催したい。 5 閉会
-----	--